

平成 27 年度研究成果情報

課題名: DNA マーカーを用いたガザミ種苗放流効果の検討

[背景・ねらい]

ガザミは有明海の重要魚種の一つであるが、平成 15 年以降資源が低位状態にある。このため、有明沿岸四県では、ガザミ資源の回復に向け、新たに開発された DNA 親子判定技術を用いた放流効果調査に取り組んでおり、漁獲混入結果を基に、ガザミ種苗放流の有効性について検討している。

[成果]

- (1)平成 27 年度は、C3 サイズ(全甲幅長 10 mm)の種苗 98 万尾を放流した(表 1)。本年度は 414 検体についてマイクロサテライト DNA 分析により、漁獲物への放流種苗の混入状況を調査した。その結果、2 個体が本県で放流した種苗であると推定された。
- (2)モニタリング調査の結果、佐賀県海域における平成 27 年度のガザミの推定漁獲量は 23.2 トンであり、不漁であった昨年約 2 倍であった(図 1)。
- (3)これまでの調査により、標識装着が難しかったガザミ種苗の追跡調査が可能となり、放流した種苗が一定の割合で漁獲混入し、漁獲量の底上げに効果があることが示された。

表 1 佐賀県のガザミのサイズ別放流尾数(単位:万尾)

	C3 サイズ	C1 サイズ
平成 21 年	24	147
平成 22 年	24	155
平成 23 年	80	302
平成 24 年	94	175
平成 25 年	93	105
平成 26 年	63	124
平成 27 年	98	-

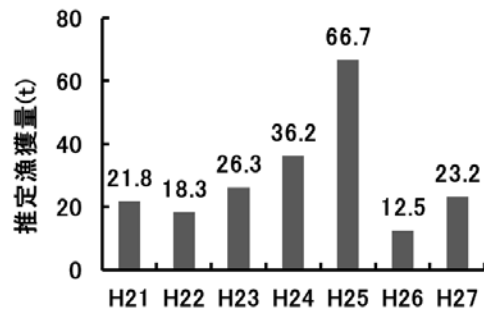


図 1 平成 21 ~ 27 年度の佐賀県海域における推定漁獲量

[課題・問題点]

- ・ 今年度、放流種苗が一定の割合で漁獲混入することが確認された。しかしながら、ガザミは有明海を広域移動する種であるため、放流効果をより正確に把握するためには、沿岸四県での調査精度の向上が必要である。

[今後の対応]

- ・ 有明沿岸四県での共同効果調査の継続 適放流条件(放流サイズ、時期、場所等)の整理 共同放流へステップアップを図る。

[その他]

研究期間:平成 27 年

研究担当者:資源研究担当 佃 政則